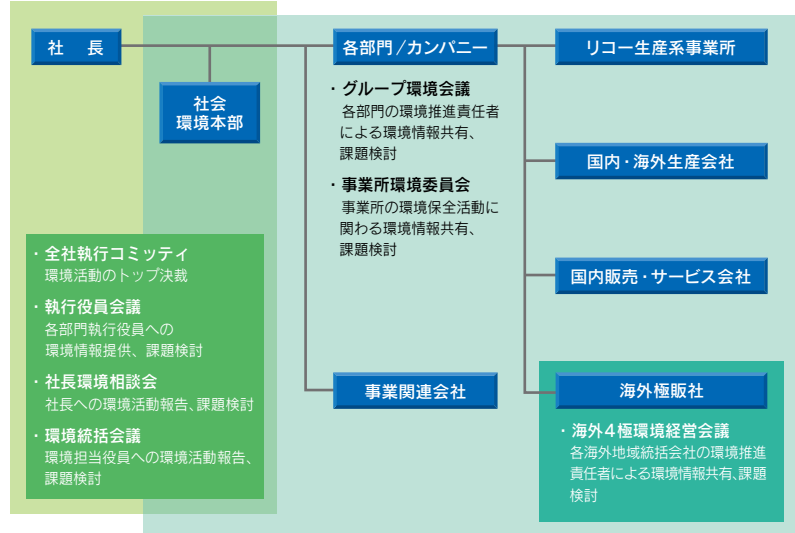


### 環境経営の実現に向けて、 環境保全活動と経営の融合を進めています。

環境マネジメントシステムは、グローバルな環境経営を推進するリコーグループにとって、重要なツールのひとつです。経営トップが策定した環境行動計画が、各事業部門の目標に落とし込まれ、活動の結果がトップにフィードバックされる仕組みを構築し、グループ全体および事業所・部門ごとのPDCA(Plan-Do-Check-Act)サイクルを回しています。また、全社の戦略的目標管理制度に「環境」の項目を取り入れ、部門別の業績評価を行っています。今後は各事業のプロセスにEMSを組み込んで環境経営を推進していきます。

リコーグループ環境経営システム組織図

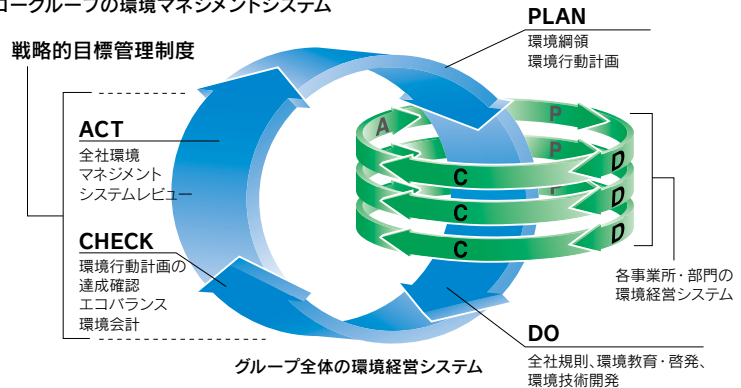


### 環境マネジメントシステムの 強化とレベルアップ

環境経営を実現するためには、事業と環境保全を別々に行うのではなく、事業の中に環境の視点を融合させる必要があります。リコーグループは、環境マネジメント体制の強化を目的に、これまで事業所や事業部門単位でISO14001の認証を取得してきました。1995年にリコー御殿場事業所がISO/DIS14001の認証を取得したのをはじめ、2000年3月には世界の主要生産拠点すべてが認証を取得。2001年には国内販売グループで一括認証を取得し、海外の販売会社でも積極的に認証を取得するなど、ISO14001の認証取得を通じた「全員参加による環境経営の風土づくり」を進めてきました。さらには、事業と環境の融合を図るために、2007年2月、リコーおよび国内販売会社でISO14001統合認証を取得しました。これにより2008年度からの16次環境行動計画では、事業部門ごとの目標を設定し、事業部門が主体となった環境施策を多角的に展開する体制が整いました。

※ ISO14001認証取得状況については、ホームページをご覧ください。  
<http://www.ricoh.co.jp/ecology/base/iso.html>

リコーグループの環境マネジメントシステム



EMS活動のレベルアップ



## 全員参加の活動

リコーグループは「全員参加」を基本に、環境経営のレベルアップに取り組んでいます。「全員参加」とは、研究開発から製品設計、調達、製造、輸送、販売、保守・サービス、回収・リサイクルの各部門の一人ひとりが、自分の業務に環境の視点を取り入れ活動することを意味します。これらの活動は、利益創出を追求する「QCD活動\*」と、ほぼイコールになっています。また、活動のレベルアップを図るために、グループ内ベンチマークも随時実施し、ノウハウを水平展開しています。

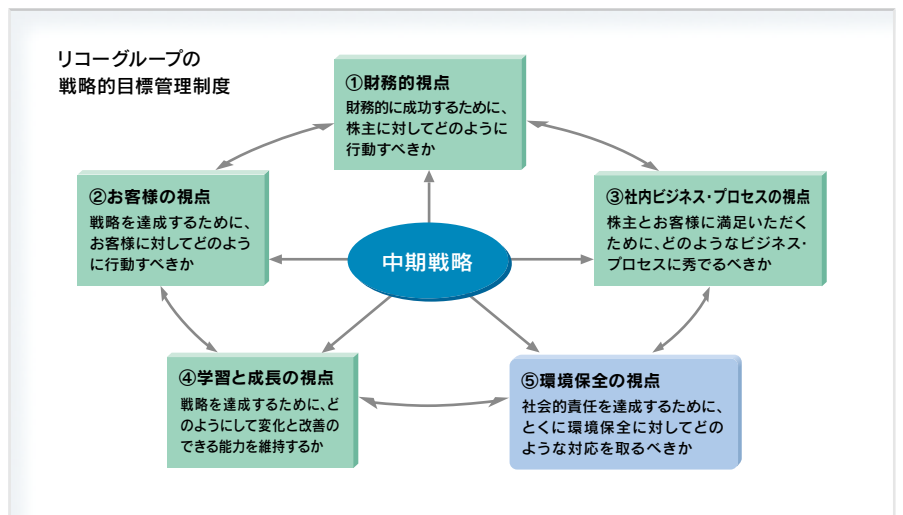
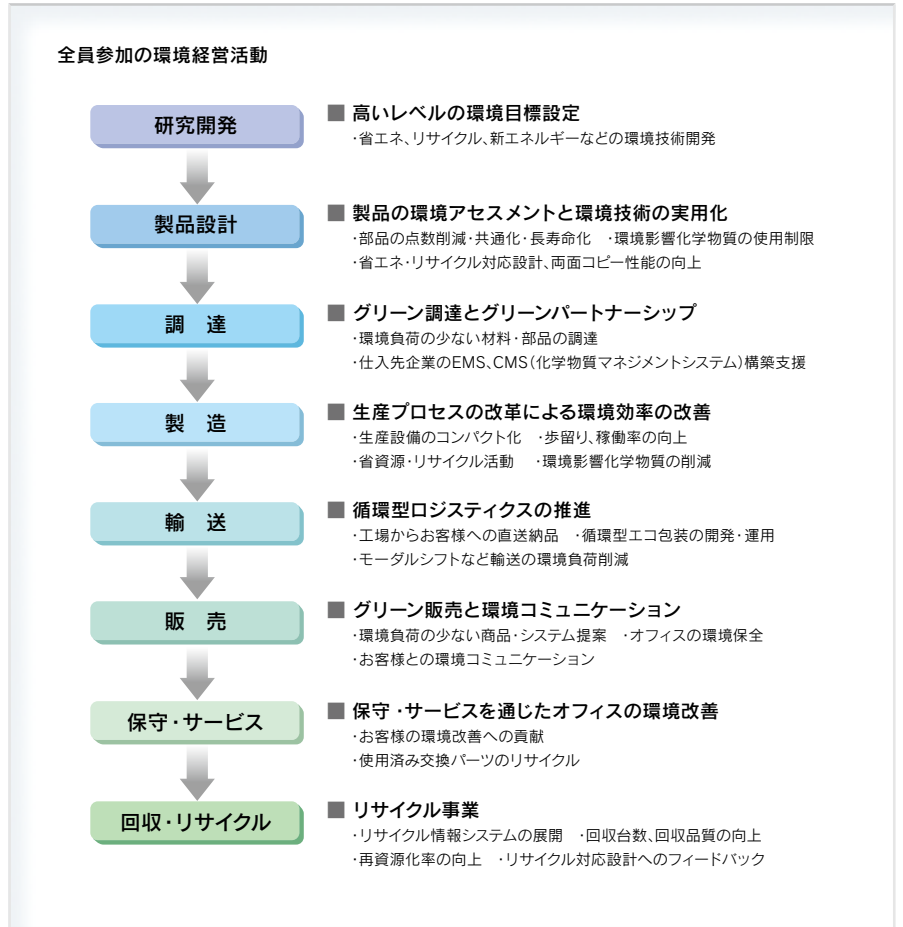
\* 品質 (Quality)、コスト (Cost)、納期 (Delivery) の管理改善活動。

## 戦略的目標管理制度

リコーグループでは、環境活動の評価基準を明確にし、部門の業績評価に結びつける仕組みとして、1999年から「戦略的目標管理制度」を導入しています。これは、1990年代にアメリカで開発された「バランス・スコアカード」の4つの視点に「環境保全」の視点を加えた戦略的な目標管理の手法です。グローバルな環境経営を実現するために、リコーグループ全体に「戦略的目標管理制度」の展開を進めています。

## リスクマネジメント

リコーグループでは、『リコーグループビジネスプロセスリスクマネジメント基本規定』に基づき「基本目的/基本目標の設定」「クライシス発生の未然防止策/初期対応策の策定」「未然防止策/初期対応策の実施」「未然防止策/初期対応策およびリスクマネジメントシステムの有効性評価と是正・改善策の策定」「是正・改善策の実施」などのPDCAサイクルによるリスクマネジメントが実行されています。また、「クライシス発生時の初期対応」に関しては、クライシスを43種類に分類し、クライシスの種類に応じ



てそれぞれの対応主管区や報告レベルが明確にされており、適切な処理と経営トップまでの報告が実施される仕組みとなっています。

環境に関する罰金・科料(リコーグループ)

	2005年度	2006年度	2007年度
件数	0	0	0
金額	0	0	0